

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 26 年 3 月 20 日 (2014.3.20)

【公表番号】特表 2013-519909 (P2013-519909A)  
 【公表日】平成 25 年 5 月 30 日 (2013.5.30)  
 【年通号数】公開・登録公報 2013-027  
 【出願番号】特願 2012-552408 (P2012-552408)  
 【国際特許分類】

G 0 2 B 21/06 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 21/06

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 1 月 28 日 (2014.1.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

対象物を走査する装置であって、  
 照明光ビーム (24) を検査されるべき対象物の領域に集束させる集束レンズ系 (30) と、  
前記照明光ビーム (24) の方向に見て前記集束レンズ系 (30) の下流側に配置された前面ガラス (38) と、  
 前記集束レンズ系 (30) と前記前面ガラス (38) の間に配された内側浸漬剤 (40) と、  
前記集束レンズ系 (30) に連結され、かつ前記集束レンズ系 (30) を所定の走査パターンにしたがって前記照明光ビーム (24) の基準位置における前記照明光ビーム (24) の中心軸に対して横方向に移動させるアクチュエータアセンブリと、  
を備え、前記内側浸漬剤と接触する前記前面ガラス (38) と前記集束レンズ系 (30) の各表面が互いに相対移動可能である、装置。

【請求項 2】

前記集束レンズ系 (30) と前記前面ガラス (38) の間の隙間が前記内側浸漬剤 (40) で満たされる、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記内側浸漬剤 (40) の前記集束光ビーム (24) に対し垂直方向の境界が、膜 (54) で形成されている、請求項 1 または 2 に記載の装置。

【請求項 4】

前記内側浸漬剤 (40) が所定の粘性を有する、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の装置。

【請求項 5】

前記内側浸漬剤 (40) がゲル様の状態で存在する、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の装置。

【請求項 6】

前記内側浸漬剤 (40) が、前記集束レンズ系 (30) および / または前記前面ガラス (38) と同じか、ほぼ同じ屈折率を有する、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の装置。

**【請求項 7】**

前記前面ガラス(38)および/または前記集束レンズ系(30)の、前記内側浸漬剤(40)と接触する表面が、所定の粗さを有する、請求項1~6のいずれか一項に記載の装置。

**【請求項 8】**

前記前面ガラス(38)および/または前記集束レンズ系(30)の、前記内側浸漬剤(40)と接触する表面が、硬化される、請求項1~7のいずれか一項に記載の装置。

**【請求項 9】**

請求項1~8のいずれか一項に記載の装置を備える、走査顕微鏡、レーザ走査顕微鏡および/または共焦点顕微鏡型の顕微鏡。

**【請求項 10】**

対象物を走査する方法であって、

集束レンズ系(30)を使用して、検査されるべき対象物の領域に集束光ビーム(24)を集束し、

前記照明光ビーム(24)の方向に見た時に、前記集束レンズ系(30)の下流側に前記前面ガラス(38)を配し、

前記照明光ビーム(24)の方向に見た時に、前記集束レンズ系(30)と前記前面ガラスの間に内側浸漬剤(40)を導入し、

アクチュエータアセンブリを使用して、所定の走査パターンにしたがって、前記照明光ビーム(24)の基準位置における前記照明光ビーム(24)の中心軸に対して横方向に、前記集束レンズ系(30)を移動し、

前記内側浸漬剤と接触する前記前面ガラス(38)と前記集束レンズ系(30)の各表面を互いに相対移動可能とする、  
方法。

**【請求項 11】**

前記照明光ビーム(24)の方向に見た時に、前記浸漬剤(40、48)と前記対象物の間にカバーガラスを配する、請求項10に記載の方法。

**【請求項 12】**

前記前面ガラス(38)と前記対象物の間に外側浸漬剤(48)を導入する、請求項10または11に記載の方法。